『特定非営利活動法人えがおつなげて』のご紹介

◆ 活動概要

農をはじめとした地域共生型のネットワーク社会を創ることを目的に、「村・人・時代づくり」を行っています。山梨県北杜市白州町を中心に、北杜市増富、南アルプス・八ヶ岳周辺、長野県飯島町、長野県小諸市、栃木県那須、茨城県常陸太田市、会津地域、三重地域、福岡地域、東京丸の内、などで、以下の活動を行っています。

ネットワーク

空と土プロジェクトや企業のはたけ倶楽部、やまなし企業ファームリーグなど、企業との連携での農商工連携、耕作放棄地解消活動

山梨エネルギーファーム、木質バイオマスなどエネルギー対策 えがおファームによる農村都市交流プログラムやえがおマルシェによる農作物・加工品の販売他



◆ 表彰履歴

農林水産省(平成19年度)

「オーライ!ニッポン大賞」受賞

(財)あしたの日本を創る協会(平成20年度)

「あしたのまち・くらしづくり活動部部門

内閣総理大臣賞」受賞

経済産業省(平成20年度)

ソーシャルビジネス55選に選定

SEOY 日本プログラム(平成22年度)

ファイナリスト選出



◆ プロフィール

設立:2001年2月

役員

代表理事 曽根原久司

1961年長野県飯田市生まれ。明治大学卒業後、フリーター、ミュージシャンを経て、金融系の経営コンサルトの道へ。バブル崩壊後、銀行などの経営指導に危機を感じ、95年、東京から山梨へ移住し、農林業を柱とした自給自足の生活を実践。01年 NPO 法人「えがおつなげて」設立。内閣府が選定する「地域活性化伝道師」235人中の1人に選ばれる。

えがおファーム農場長・理事 小黒裕一郎

1979 年横浜生まれ。立教大学卒業後の 4 年間、自転車で日本・世界を旅した際に重要であると実感した自給的暮らしを実践するため、2005 年に現在の居住地である山梨県北杜市に移住。NPO法人えがおつなげての農場・えがおファームの農場長として、持続可能な農業の実践と、農村を舞台としたグリーンツーリズムイベントの企画・運営を行っている。

本部所在地:山梨県北杜市白州町横手 2910-2 Tel:0551-35-4563 Fax:0551-35-4564

主要活動拠点:本部、開拓館[えがおつなげての古民家]、開拓館アネックス、えがおファーム

&都市農村交流センター鉱泉みずがきランド、東京事務所

URL: http://www.npo-egao.net/







山梨県の地域おこし協力隊

概要

山梨県で、40名の地域おこし協力隊員(農業協力隊員)を受入れ。 JAや農業生産法人等の支援機関のもと各地域で活動。



内容

隊員の人材

・三大都市圏等の都市から男性35名、女性5名 計40名を受入れ

設置根拠

·農業協力隊推進事業実施要綱

受入れ期間

平成21年10月~(平成23年度末まで)

活動内容

- ·農業活動(耕作放棄地解消作業、農作物の栽培)
- ・地域おこし活動(地域共同作業、地域美化活動等)

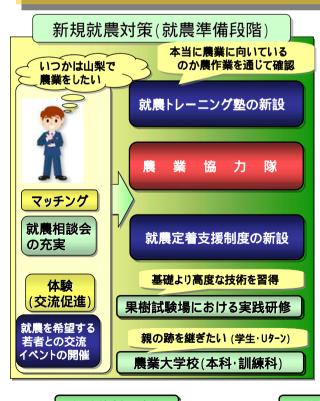
ポイント

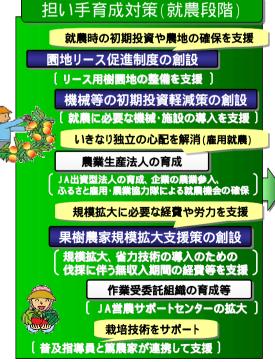
・俳優の菅原文太氏をコーディネータとして、定住に向けた指導・助言、シンポジウムの開催。



農作業を行う隊員

H22年度新規就農者確保・育成対策





行政体制の強化

担い手対策室の創設

普及センター、就農支援センター 農業大学校との連携強化

現場でのバックアップ

新

規

就

農

者

等

ニューファーマー応援チームの創設 JAの支所、支店の範囲等で地域の実情に 応じた担い手支援(オーダーメイド支援)を実施

試験研究の促進

担

61

省力化営農技術の研究を充実 研究成果の早期普及 (実証ほの設置、拡充

農事組合法人 伊賀の里モクモク手作りファーム 代表取締役 木村修氏

木村氏は、農事組合法人伊賀銘柄 豚振興組合(伊賀の里モクモク手作 りファーム)を設立。手作りハム・ ソーセージ事業からスタートし、体 験交流型の農業公園を運営。年商 47億円(平成21年度)の農業者 集団を率いる。



木村修氏(左)と吉田修氏(右) [写真:beフロントランナー]

所 在 地 三重県伊賀市

沿 革 昭和50年 同志社大学経済学部卒業、

三重県経済農業協同組合連合会就職

昭和62年 同連合会退職、

養豚農家16軒と農事組合法人伊賀銘柄豚振興組合設立

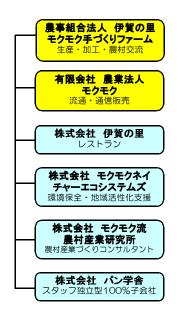
平成 4年 (有)農業法人モクモク設立

平成 6年 農事組合法人伊賀銘柄豚振興組合設立を伊賀の里モクモク 手作りファームに名称変更

事業内容 農場・畜産加工場・食育学習

施設の運営(ファーム事業)・

通信販売事業・レストラン事業



組織図

<経営に関する考え>(注3)

●生産、加工、流通、販売、サービスを一体化

ファーム事業は、14haの敷地で、ハム・ソーセージのほか300種類の製品を製造、ハム・ソーセージの体験教室などを開催し、ファームには年間50万人が訪れる。通信販売事業は、売上げの9割を4万人のモクモクネイチャークラブ会員が占め、レストラン事業は、ファーム内のほか、三重県・滋賀県・愛知県・大阪府に出店している。

●マーケット重視

ファームには3つの大きな特徴がある。まず、消費者の心理を捕らえていること。 次に、若者を引き付けていること。 最後に、農村地域の活性化に貢献していること。

消費者の心理を捕らえる最初のきっかけになったのは、ハム・ソーセージの体験 教室。同教室を通じて、消費者はメーカーとの垣根を低くしたいと思っていること に気づいた。以来、「消費者との垣根を低くする」が、同ファームの三事業を運営 していく基本方針となっている。

●利益最大化、売上げ拡大のみを追及しない経営

基本方針に基づき、4つの事業戦略を行っている。一つは、価格競争に巻き込まれないよう自分で商品に値段をつけ、自分で販売する。ファームの商品は、市販の商品より1割から3割高い。この価格差を納得してもらうため、消費者への情報発信を強化し、つくり手の思いやこだわりを伝えることにより新たな価値を創造している。(ブランド化)

- 二つ目は、顧客単価を上げる仕組みづくり。
- 三つ目は、顧客指向であっても顧客に迎合はしない姿勢。(ニーズのずらし)
- 四つ目は、営利活動と非営利(社会的)活動を一体化することによる相乗効果。 顧客はある許容範囲を越えて事業者が収益を求めようとした場合、その事業を拒絶 し二度と顧客に戻ることはない。

こうした視点から、ファームは事業運営上、6つのフィルターを設けている。① 女性の視点、②本物の視点、③農業者の視点、④消費者の視点、⑤非営利の視点、 ⑥健康の視点、このフィルターが判断基準となり、ファームの成長を支えている。

●顧客の組織化、リピーターづくり

ファームは、当初から消費者の中でファームの考え方や活動に共感を抱き応援してくれる人達を、会員として組織化してきたことも大きな特徴と言える。

●共同経営、従業員との共同体意識

ファームは、三重県経済農業協同組合連合会を共に退職した専務の吉田修氏と共同で引っぱってきた。仏の修(社長 木村修氏)と鬼の修(専務 吉田修氏)と呼ばれ、二人揃って一つの役割を担っている。

従業員は、入社2年目からファームに出資できることやベンチャー企業的気風など従業員の"自分たちの会社"意識は強く、経営者と従業員に一体感が醸成されていることも特徴と言える。

●新規事業展開

今後は、環境への配慮や食農教育の充実から、福祉や医療への関わりまで視野にいれた事業展開を進めている。

(注3) 出典:「新しい農業の風はモクモクからやって来る」著者 木村修・吉田修・青山浩子 発行所 (株)商業界ホームページ http://www.moku-moku.com/

ながさき南部生産組

主な取扱品目

to

有機栽培や省農薬栽

培

切

なことなのだと感じ

な ŧ

野

菜

くり

0

to

め

に 安

そ

0

を実施するなどしています

有機玉ねぎ・有機じゃがいも・南 瓜・ミニトマト (アイコ) ミディ・

スティックブロッコリー・オクラ

法に を最 視察日: 2011年12月9日

所在地:長崎県南島原市北有馬町城山下 2465-1

法人化 平成3年9月 設立年月日:1975年

生産者数:118名

さし

物



を大

量

土に、

使

7

て、 50

大

量

生

行した昭和

年

薬

2

う言

かい

0 かい 者 消 内 10 ながさき南部生産組合です。 さし ます。 組合員 仲 決 費 部 0 7 必 で毎年 L 食 11 要で栽培管理 間 者 0 直 監 か な 安全・ を 2 結を る農業も 查 ic 増やしてきたの 農業 公開監 省み 専 2 門 なるに 痛 加 安心 家、 感 て、 う え 查 転 L 加 7 観 は人任 を 等 は 学 换 害 生 点 日者で 識 を 0 誓 行 環 産 か 図 物と 境 組 約 経 7 者 ら が 7 験 せ は

> を 7 1

取り ぞれ まりを厳守して 合員の皆さんは 限に が などを踏まえなが た 組んで 域の気候風土や作物 最も身体に 栽培方法で 0 め 引き出 作 生 物の 態系を す お 生 良 作っ 環 ます。 重 産 L 境 ら、 さ *t*= 視 方 2 4 組 ま ず、 0 対 品 大 1

考え、

そ

1

4

温

暖

化 環

防

止 7

取

1)

組

味

<

安 0

全

私

たち

0

境

を守る

取

特

徴

" 具 7 バ 体 ます Ŧ 的 12 な よる 例 交配 とし を 7 実 は 施 1:1

安全な食べものを長崎の大地から

とカウント L 張ることも農薬散 か 1 1) 0 *t*= な 仕 11 12 ま テ 組 0 直 1 防 みて して 一接薬剤 虫が吸うこと 近 に、 プ 虫 年の 中 を 剤 す。 この は ま を散 含ま 温 ウ 使 ス 暖 テ 布 用 か 1 0 化 布 せ 回 プ 10

死 殺

温が 応で 異 くなるの 苦 1 種 常常 収 で 0 慮 は温 2.2℃高くな きるの 穫 気 適 象では 量 応能力でなんと が2℃までなら、 から 暖 1,1 ます。 減っ 化に です 昔 つ 7 対 かい 10 7 応で 比 L 気 おり、 温 ま べ 近 き 7 頃 か かい

色 マ め 虫成分を 張 ま

1=

高 は

して

ープには殺虫成分が含まれていて、 の成分を吸って虫が死にます。しかし、 トマト には殺虫成分が付着せず、影響はありません。



こちらの黄色いシートは粘着シートになってい て、虫を捕まえます。ハエトリ紙の新バージョ ンのようなもの。

-ロメモ

ミニトマトの甘さ ミニトマトの糖度を簡単に 計る方法があります。水に浸 けるだけで浮くか?沈むか? を見るだけです。水に沈むミ ニトマトは糖度が高く、8度 以上あります。

参加理事の感想

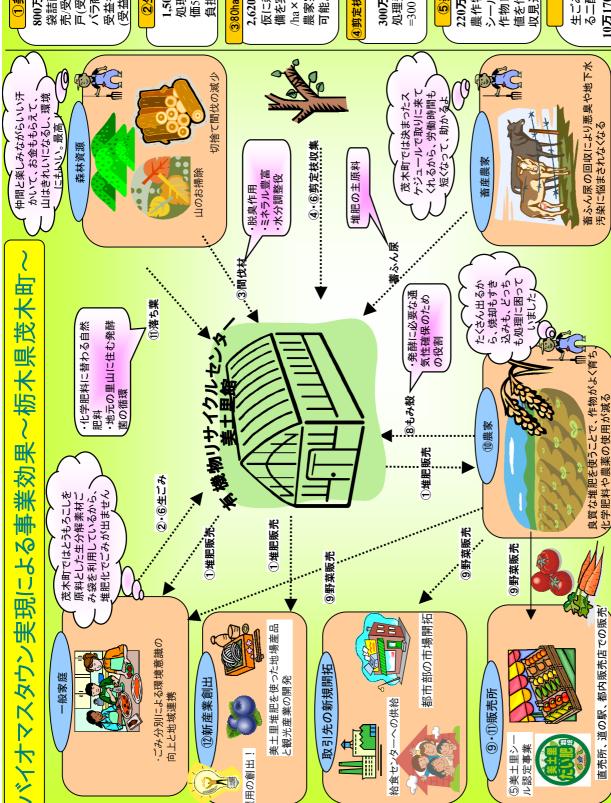
ほとんどの農家で跡取りもしっかり育っているとのこ 誇りを持って日々作物を作っておられる姿を見て、 これを絶やすわけにはいかないと思えるのだと、説明し てくださった方のお話しから感じました。

生産者よりコープしがのみなさんへ

「コープしがさんとは産直の理念が合う」と思います。 商品だけでなく まるごと産直!

人と地域もつながりましょう。

顔が見えていれば農薬を撒くか撒かないか判断する時 に違います。



①美十里堆肥販売売

売/受益者延べ2000 バラ商品1000t販売/ 戸(受益面積10ha) 袋詰商品1万袋販

受益者延べ500戸 受益面積100ha)

2年ごみ焼却費用の削減

,500万田

価5万円=1,500万円の町費 処理量年間300t×負担単 負担金削減

3)80haの森林整備による事業費削減

2,620万円

森林整 農家実施の場合なら660万円で 備を実施した場合41万円 仮に森林組合に委託し、 /ha×80ha=3,280万円

4.剪定枝堆肥化による焼却費用の削減

300万円

=300万円の町費負担金削減 処理費60t×負担単価5万円

⑤美土里シール認定事業

220万円

値を付けて販売した場合の増 収見込み 作物1点当たり10円の付加価 シールを添付商品として、農 豊作物のブランド化。

生ごみ・剪定枝の堆肥化によ る二酸化炭素削減効果

10万1700円(11-CO2あたり2000円とした場合)

生ごみ、剪定枝はカーボンニュートラルの観点 80%の生ごみ(剪定枝を含む)を乾燥させるの に必要な灯油量を燃焼した際に排出する二酸 化炭素排出量と仮定した。 から二酸化炭素排出量はゼロとする。堆肥化 によって削減できる二酸化炭素量を、水分率 (算出条件)

6002削減効果

年間約51tの二酸化炭素削減効果

提供や、直売所での販売促進により、地域住民

への健康の促進につながる

地場産品・取組を活用した新産業の創出

美土里堆肥栽培野菜やお米の学校給食への

・学校給食への地場食材供給:100万円

都市圏への販売ルートの確立

酪農家13戸の約600頭の家畜糞尿の処理

農地80haの環境汚染防止

7 畜産経営による環境汚染防止

8もみ殻焼却中止による環境保全

美土里シール認定事業:220万円

農作物のブランド化

水稲農家50戸の水田から出るもみ殻の処理

水田180ha分のもみ殻焼中止

(10)農家の経営改善

健康促